

4.専門分野Ⅱ－3) 教授内容

(7) 母性看護学

母性看護学構築の考え方

母性看護は、女性の一生を通して健康の維持、増進、疾病の予防に関わる領域である。この母性看護の領域は、次世代の健全育成のための妊産褥婦及び新生児の看護活動という、人類普遍の願いを担う分野に加え、社会の変容、医学の進歩・発展、母子をめぐる生活環境の変化など女性役割や価値観の多様化に対応する分野に拡大されて考えられている。

そのため、看護の対象を以下の3つの側面から理解し、その各側面について対象を取り巻く施策や法律、母子保健組織についても学び、看護とともに、保健・医療・福祉チームの一員として、社会資源との連携もできるように学習する必要がある。

対象を理解する3つの側面の1つは、卵巣機能から見た各ライフステージにおける理解である。特に種族維持に関わる生殖期すなわち女性の成熟期を中心にその周辺の思春期、更年期の理解は重要である。2つめは、生殖過程には両性が関与することから、「母性」とともに「父性」についての理解が深まること重要である。3つめは社会の状況と「母性」が密接に関わっていることから、医学の進歩も含めた社会の動向による生命観や倫理観、女性役割や価値観の多様化を踏まえた理解である。

学習者自身は、殆どが「次世代の健全育成」を担う世代である。このことから、健全な青年期を土台として自分自身の発達課題の認識を深めることが、対象の理解や問題点についての学びをより深めることにつながり、更に生命を尊重し倫理に基づいた母性看護の実践のための学習の必要性を理解することにつながる事が期待できる。

以上の母性看護の意義と役割、母性看護の対象の理解、学生の状況とをふまえ、母性看護学の学習過程を以下のように考えた。

母性看護学概論では、社会の状況を母性機能との関連からとらえ、生命倫理を含めた女性の多様な価値観を理解し、母性看護の実践に必要な基盤となる概念を学習する。また、女性の一生を通じた健康の保持・増進を目指した健康教育や支援について理解し、母性の健康上のニーズと必要な援助についても学習する。

母性看護学方法論Ⅰでは、母性のライフステージ各期の母性機能の変化と母性機能の保持・増進、不調あるいは逸脱した場合の健康回復に向けた支援について学習する。

母性看護学方法論Ⅱでは、妊娠・分娩・産褥・新生児期の各期の経過と支援を理解し、次世代の育成をめぐる家族を含めた支援のあり方を、演習も交えて看護の展開方法を学習する。

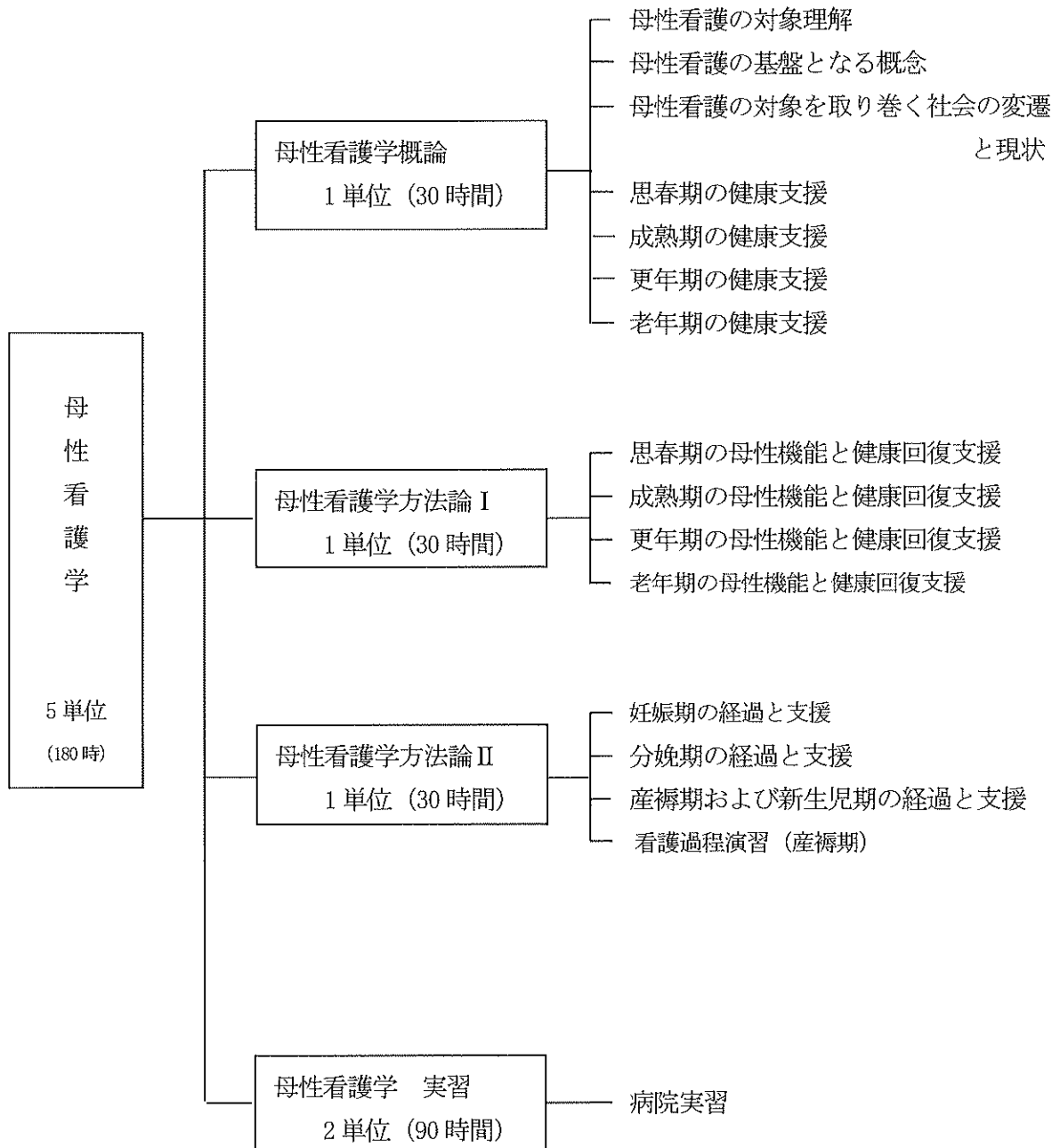
母性看護学目的

思春期、成熟期、更年期、老年期各期の母性にかかわる健康の問題を身体的、精神的、社会的側面から統合的に理解し、母性及び次世代の健康の保持・増進・疾病予防・健康の回復に必要な援助ができる能力を養う。

母性看護学目的・目標

1. 母性の概念および特徴を理解する。
2. 母性各期の特徴と発達課題を理解する。
3. 母性各期の母性の健康に影響を及ぼす因子について理解する。
4. 母性各期に応じた健康の保持・増進に向けた援助について学ぶ。
5. 母性看護の役割と機能を理解する。
6. 妊婦、産婦、褥婦および新生児とその家族を対象に、次世代の健全な育成に向けて必要な援助について学ぶ。

母性看護学の構成と科目のねらい



授業科目	母性看護学 概論	講師名	堀越 幸子 増渕 香代子 井上 南子	単位 1 単位	時期 1 年次後期
				時間 30 時間	
実務経験のある 講師による授業科目	○	実務経験	助産師・看護師		
科目目標 1. 母性看護の対象の特性を理解できる。 2. 母性看護の基盤となる概念を理解できる。 3. 母性看護の対象を取り巻く社会について理解できる。 4. 母性・父性の発達・成熟・継承について理解できる。 5. 母性機能の各段階にある対象の健康支援を理解できる。					

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担当
1	1. 母性とは 1) 親になること 2) 母性の身体的・心理的・社会的特性 3) 母性看護における母性	講義	堀越
2	1. 母子関係 1) 愛着・母子相互作用と母子関係形成	講義	
3	1. セクシュアリティの概念および人間の性と性行動 1) セクシュアリティ〈人間の性〉 2) セクシュアリティの発達と課題	講義	
4	1. 母性看護のあり方 1) 母性看護の概念 2) 母性看護の課題と展望	講義	
5	1. 母性看護における倫理 1) 生命倫理と看護倫理 2) 看護における倫理的意思決定 2. 母性看護における安全・事故防止	講義	
6	1. 母性看護の歴史的変遷と現状 1) 母性看護の変遷 2) 母性保健統計からみた動向 3) 母性看護に関する組織と法律	講義	増渕
7	4) 母性保健施策からみた現状 5) 母性看護の場と職種	講義	
8	1. 母性看護の対象を取り巻く環境 1) 家族 2) 地域社会 3) 生物学的環境 4) 社会文化的環境	講義	増渕
9	1. 女性のライフサイクルに伴う形態・機能の変化 2. 女性・家族のライフサイクル	講義	
10	母性・父性の発達・成熟・継承	講義	

11	1. 性教育のありかた 2. 健全な母性の健康づくり	講義 ディスカッション	井上
12	1. 性的健康と家族計画 2. 職業をもった女性	講義 ディスカッション	
13	更年期障害の予防への援助	講義	
14	老年期にある女性の健康づくり	講義	
15	筆記試験（90分）		

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	<p>テキスト：</p> <p>1. 森恵美編：母性看護学1 母性看護学概論、系統看護学講座 専門24、医学書院。</p> <p>参考図書：</p> <p>1. 厚生統計協会編：国民衛生の動向</p>
評価の方法	筆記試験 100%（君島 35% 堀越 35% 井上 30%）
アドバイス ・その他	

授業科目	母性看護学 方法論 I	講師名	井上 南子		単位 1 単位	時期 2 年次前期
					時間 30 時間	
実務経験のある 講師による授業科目		○	実務経験	看護師		
科目目標 1. 思春期にある女性の健康回復支援が理解できる。 2. 成熟期にある女性の健康回復支援が理解できる。 3. 更年期にある女性の健康回復支援が理解できる。 4. 老年期にある女性の健康回復支援が理解できる。						

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担当
1	1・月経前症候群と健康回復支援 2. 月経困難症と健康回復支援	講義 ディスカッション 課題 (5回・6回)	井上
2	3. 10代の人工妊娠中絶と健康回復支援 4. 10代の性感染症と健康回復支援		
3	性暴力被害と健康回復支援		
4	DVD 視聴：思春期女性の性暴力被害に関する内容		
5	課題：DVD 視聴後、性暴力被害女性の対象理解と健康回復支援について考えたことをレポートする。		
6	不妊と健康回復支援 課題：レポート 不妊症の治療を受けた女性の手記を読み、対象理解と健康回復支援について考えたことをレポートする。		
7	望まない妊娠と健康回復支援		
8	育児不安と虐待の健康回復支援		
9	子宮筋腫と健康回復支援		
10	1. 更年期女性の不定愁訴の健康回復支援 2. 尿失禁と健康回復支援		
11	子宮癌と健康回復支援		
12	卵巣癌と健康回復支援		
13	子宮下垂と健康回復支援		
14	膣炎・外陰炎と健康回復支援		
15	筆記試験 (90分)		

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	テキスト： 1. 森 恵美編：母性看護学 1 母性看護学概論、系統看護学講座 専門 24、医学書院 2. 末岡 浩編：女性生殖器 系統看護学講座 専門 13、医学書院
評価の方法	筆記試験 80%、課題レポート 20%
アドバイス ・その他	健康回復支援論で学んだことを想起し、母性機能を中心とした女性特有に起こり得る健康状態の不調あるいは逸脱時の支援を学ぶ内容の科目です。

授業科目	母性看護学 方法論Ⅱ	講師名	矢島 悟子	単位 1 単位	時期 2 年次通年
			行武 沙織 岡田 愛実 井上 南子		
実務経験のある 講師による授業科目	○	実務経験	助産師・看護師		
科目目標 1. 正常な妊娠・分娩・産褥・新生児の経過および支援方法を理解する。 2. ハイリスクおよび異常な状況にある対象の経過および支援の方法を理解する。 3. 母性看護における看護の展開方法を理解する。					

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担 当
1	1. 正常な妊娠期の経過と看護	講義	矢島
2	1) 妊娠期にある対象の身体的・心理的・社会的特性		
3	2) 母体および胎児の健康状態のアセスメント 3) 妊娠の経過と健康管理		
	2. ハイリスク妊娠と看護		
	1) ハイリスク妊娠の病態生理・検査・治療		
	2) ハイリスク妊娠の看護 (切迫流早産を除く)		
4	1. 正常な分娩期の経過と看護	講義	
5	1) 分娩期にある対象の身体的・心理的・社会的特性 2) 分娩期にある母体および胎児の健康状態のアセスメント 3) 分娩の経過と看護		
	2. 異常な分娩期の経過と看護		
	1) 分娩異常の病態生理・検査・治療		
	2) 異常な分娩期にある産婦への看護 (帝王切開を除く)		
6	1. 正常な産褥期の経過と看護	講義	行武 岡田
	1) 産褥期にある対象の身体的・心理的・社会的特性		
7	2) 褥婦の健康状態のアセスメント 3) 産褥の経過と看護		
	2. 異常な産褥期の経過と看護		
8	1) 異常な産褥経過の病態生理・検査・治療		
	2) 異常な産褥経過にある褥婦への看護		
9	3. 正常な新生児期の経過と看護		
	1) 新生児の生理		
	2) 新生児の健康状態のアセスメント		
	3) 新生児期の経過と看護		
	4. 新生児の異常と看護		
	1) 異常な経過にある新生児の病態生理・検査・治療		
	2) 異常な経過にある新生児への看護		

10	技術演習：新生児の全身観察（諸計測を含む） 沐浴	技術演習	行武 岡田 専任 教員
11			
12	演習・グループワーク： 対象理解の仕方および看護の視点の見出し方 （正常な経過をたどる褥婦を例に検討する）	課題：グルー プワーク前の 個人学習	井上
13			
14			
15	筆記試験（90分）		

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	<p>テキスト：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 森 恵美編：系統看護学講座, 専門分野Ⅱ, 母性看護学各論, 母性看護学②, 医学書院, 2. 石村由利子編：根拠と事故防止からみた母性看護技術, 医学書院.
評価の方法	<p>筆記試験：70%（矢島：40%、榊原：30%） 演習・グループワーク・課題（12回～14回）：30%（井上30%）</p>
アドバイス ・その他	

3.専門分野－3) 教授内容

(8) 精神看護学

精神看護学構築の考え方

21世紀は「こころの時代」と言われている。社会構造が複雑になり、その歪みとしての心の問題が多くなり、誰もが精神の危機状況に陥る可能性があると言われている。

精神看護の対象は、精神障害の有無にかかわらず全ての人を対象とし、さらに精神に障害を持ち医療施設に通院または入院加療している人だけではなく、障害をもち地域社会で生活をしている人も対象としている。

精神看護学では、人間理解を基盤として、生命の尊厳や人権尊重など倫理的判断や態度を習得する。また、各ライフステージを人のこころの発達からとらえ、精神を病む人々やその家族、また地域社会を含めた全ての人を対象に「こころの健康」を考え、こころの健康の維持・増進の方法について学習する。精神医療・看護に関わる社会問題をとらえながら今後の精神医療・看護の課題についても考えられるように構築した。授業及び実習を通して、他者との関りを通して自己理解を深めることができるようにした。

精神看護概論では、こころの健康、ライフサイクル各期におけるこころの発達と危機状況について理解を深める。また、精神看護の機能と役割では、対象との治療的対人関係の成立、効果的なコミュニケーション技法など、あらゆる看護の基盤となる知識や技術、高度で広範な専門性が求められることを理解する。また、精神保健医療の歴史的変遷を概観し、精神保健の基本的概念、今後の精神医療のあり方について考える。法制度と社会資源の活用については、保健・医療・福祉の統合という視点に立って広く理解する。

精神看護方法論Ⅰでは、精神を病む人がその回復過程において抱える問題と、回復を助け解決するための看護援助の基本について学ぶ。

精神看護方法論Ⅱでは、精神を病むことがその人の日常に与える影響に視点をおいて理解し、生活を整えるための看護の援助の実際について理解する。また学んだ知識を統合して事例を基にその人にとって必要な看護を考える。精神看護学実習では、精神看護学の講義で学んだことを生かし、実際に精神に障害をもつ対象と関わり、対象を理解し対象のセルフケアの発揮に向けた援助を実践することとした。

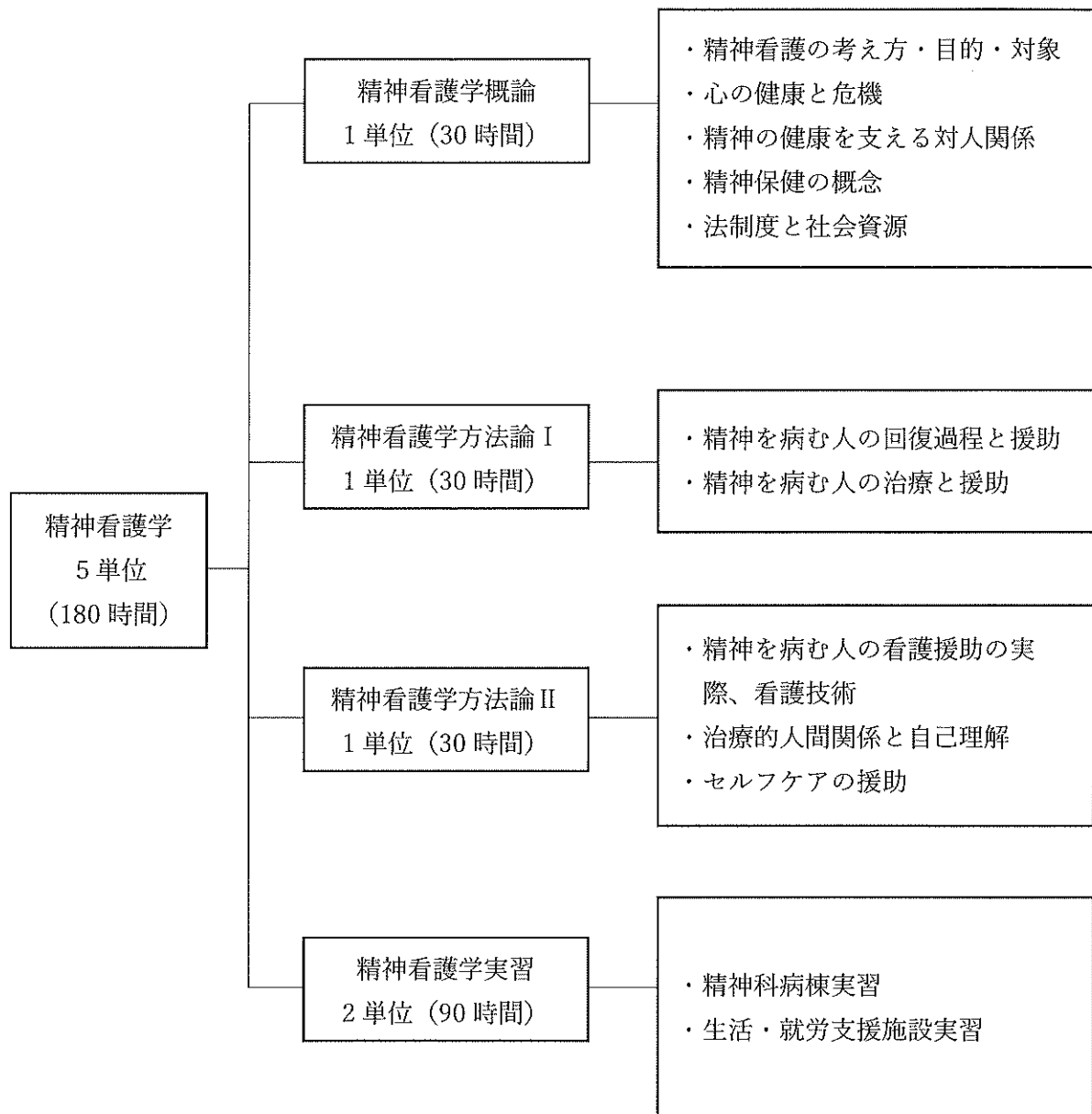
【精神看護学の目的】

精神看護の基盤となる人間理解を目的とし、歴史的背景をふまえて、生命の尊厳や人権尊重等、倫理的判断や態度を養う。精神に病む人々やその家族、地域社会を含め、すべての人を対象に「こころの健康」を考え、その維持・増進の方法を学ぶ。また、その人らしい暮らしの実現に向け、生活と生き方に与える影響を理解し、関わりを通し支援できる看護実践能力を養う。

【精神看護学の目標】

1. 「こころの健康」は、こころの発達と環境との相互作用が起因していることがわかる。
2. 精神保健医療の歴史の変遷を学び、現在の課題から今後の方向性を考える事ができる。
3. 法制度を学び、保健・医療・福祉の統合的視点で、地域の社会資源の活用と、そこで生活をする当事者へのサポートシステムを理解する。
4. 精神保健医療福祉における多職種連携と看護師の役割がわかる。
4. 治療的人間関係と自他理解を考える事ができる。
5. 精神を病む人の生活への影響を学び、その人の強みを生かした援助方法がわかる。
6. 看護における感情労働と看護師のメンタルヘルスを理解する。

精神看護学の構成と科目のねらい



授業科目	精神看護学 概論	講師名	山根美智子 稲見 聡	単位 1単位	時期 2年次前期
				時間 30時間	
実務経験のある 講師による授業科目	○	実務経験	看護師	精神保健福祉士	
科目目標 1. 精神看護の考え方が理解できる。 2. 精神の健康を支えるために必要な基礎的知識が理解できる。 3. 精神の健康を支えるために必要な対人関係の基本がわかる。 4. 精神医療の歴史的変遷と現状を知り、法制度や社会資源について理解できる。 5. 保健医療福祉の統合的視点から、生活の場の精神保健、サポートシステムがわかる。					

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担当
1	1. 精神看護の目的・考え方 2. 精神看護の対象	講義	山根
2	1. 現代社会と心の健康	グループワーク	
3	1. 心の構造と機能、自我の構造 2. 防衛機制と行動	講義 グループワーク	
4	1. 心の発達と発達危機	講義	
5	1. ストレス対処 2. 危機を乗り越え生きる力と強さへの援助 カプランの予防の概念、レジリエンス、 リカバリ、ストレングスモデル	講義	
6	1. 精神の健康を支えるための対人関係 傾聴・共感、	演習	
7	1. 精神に障害をもつ人とのコミュニケーション 非言語的コミュニケーション、沈黙、 治療的コミュニケーション	DVDを元にグループ ワーク	
8	1. ペプロウの理論による患者 - 看護師関係 2. 患者 - 看護師関係における看護師の役割の実際	講義 事例を通して考える	
9	1. 看護師のメンタルヘルス 感情労働としての看護 2. リエゾン精神看護	講義 事例を通して考える	
10	1. 精神保健の基本的概念 2. 精神保健医療の歴史的変遷と現状	講義	稲見
11	1. 生活の場と精神保健 生活の場（家庭・学校・職場・地域）と精神保健 2. 災害と精神保健	講義	
12	1. 精神保健・医療・福祉をめぐる法制度と社会資源	講義	
13	1) 精神保健福祉法 2) 障害者総合支援法	講義	
14	1. 地域生活を支援する保健・医療・福祉の実際	講義	
15	筆記試験		

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	<p>テキスト：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 武井麻子他：系統看護学講座専門分野Ⅱ精神看護学〔1〕精神看護の基礎，第4版，医学書院 2. 武井麻子他：系統看護学講座専門分野Ⅱ精神看護学〔2〕精神看護の展開，第4版，医学書院
評価の方法	筆記試験 100%（山根 60%、稲見 40%）
アドバイス ・その他	現代社会と心の問題について考える科目なので、現代社会の状況に目を向け、積極的に意見が述べられるようにしておく。また、自己について見つめる機会があるので、授業を通して辛いと感じたらすぐに申し出ること。

授業科目	精神看護学 方法論 I	講師名	佐藤巳那子 国谷 聡	単位 1 単位	時期 2 年次後期
				時間 30 時間	
実務経験のある 講師による授業科目		○	実務経験	看護師	
科目目標 1. 精神を病む人が回復過程に抱える課題と「生きにくさ」を理解する。 2. 精神を病む人の看護援助の基本を理解する。					

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担当	
1	1. 精神を病む人の回復過程 1) 精神を病む人を理解するためには 2) 精神を病む人の回復とは 3) 精神疾患発症から地域で暮らすまでの経過	講義	国谷	
2	1. 精神疾患の治療と看護	講義		
3	1) 薬物療法・電気けいれん療法と看護 2) 精神療法と看護 3) 環境・社会療法と看護 4) 認知行動療法	演習		
4	1. 精神を病む人への看護援助の実際 1) 様々な精神症状と看護 思考の障がい、感情障がい、意欲の障がい、 知覚の障がい、意識の障がいと看護	講義		
5	1. 精神疾患を持つ人の治療と回復過程と看護	講義		
6	1) 統合失調症の治療に伴う回復過程と看護	DVD 視聴を通してグ ループワーク		
7	2) 気分障害患者の治療に伴う回復過程と看護			
8	3) パーソナリティ障害患者の看護 4) 依存症患者の看護 5) 強迫障害患者の看護 6) 性同一性障害の看護 7) ひきこもりの看護			
9	1. ライフステージと精神疾患			講義 グループワー ク
10	1. 精神疾患と家族	講義		佐藤 7~
11	1. 入院治療の目的と意味 2. 入院患者の治療環境をつくる	講義		
12	1. 精神科における行動制限を行う目的とその看護 2. 緊急事態への対処 自殺、暴力、無断離院、スタッフへのサポート	講義		
13	1. 精神科における身体のケアと実際	講義		
14	1. 身体に現れる心の痛みの理解と看護 2. 身体合併症に対する看護	講義		
15	筆記試験			

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	テキスト： 1. 武井麻子他：系統看護学講座専門分野Ⅱ精神看護学〔1〕精神看護の基礎，第4版，医学書院，2021。 2. 武井麻子他：系統看護学講座専門分野Ⅱ精神看護学〔2〕精神看護の展開，第4版，医学書院，2021。 3. 山本勝則他：看護実践のための根拠がわかる精神看護技術，第2版，メヂカルフレンド社
評価の方法	筆記試験 100%（佐藤 50% 国谷 50%）
アドバイス ・その他	1年次に履修した疾病治療論（精神）の内容を復習し授業に臨むこと。

授業科目	精神看護学 方法論Ⅱ	講師名	鈴木弘子	単位 1単位	時期 2年次後期
				時間 30時間	
実務経験のある 講師による授業科目		○	実務経験	看護師	
科目目標 1. 精神疾患をもつことによって影響された生活への看護援助の実際を理解する。 2. リハビリテーションの考え方を理解し、精神医療における作業療法や SST の目的・意義・実際を学ぶ。 3. 精神保健・医療・福祉における多職種連携と看護の役割がわかる。 4. 精神疾患をもつ人の生活上の課題を把握し必要な看護がわかる。					

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担当
1	1. 精神に障害をもつ人への看護の考え方 2. ケア的前提・原則・方法	講義	鈴木
2	1. 精神に障害をもつことの日常生活への影響	グループワーク	
3	1. 精神保健福祉法における多職種連携と看護の役割	講義	
4	1. 精神科リハビリテーションの考え方	講義 DVD 視聴と討議 演習	
5	2. 集団療法と看護 1) 作業療法と看護 2) SST の理論と実際		
6	1. 精神科デイケア・ナイトケアの意義と看護 2. レクリエーションの意義と計画	DVD 視聴と討議	
7	1. 当事者の語りから知る暮らし	当事者による語りをもとにグループワーク	
8	生きがい、生活、将来の展望、生きにくさ、サポートの実際 2. 当事者の語りから考える求められる支援		
9	1. 精神看護実践におけるプロセスレコードの意義 2. プロセスレコードの記述	講義 ロールプレイ 演習	
10	1. オレムのセルフケア理論	講義 個人ワーク グループワーク 発表 個人ワーク	
11	2. オレムのセルフケア理論を用いた事例への援助		
12	事例のセルフケアの強みと不足を考える		
13	事例のセルフケアの維持・発揮に向けての援助		
14	を考える。 3. グループで検討した事例のとらえ方、援助について発表 4. 他の発表を聞いてのグループディスカッション		
15	筆記試験、個人の学びのまとめの記載		

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	<p>テキスト：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 武井麻子他：系統看護学講座専門分野Ⅱ 精神看護学[1]精神看護の基礎，第4版，医学書院， 2. 武井麻子他：系統看護学講座専門分野Ⅱ 精神看護学[2]精神看護の展開，第4版，医学書院， 3. 山本勝則他：看護実践のための根拠がわかる精神看護技術，第2版，メヂカルフレンド社，
評価の方法	筆記試験 50% 課題レポート 50% (SST、当事者の語りから、事例)
アドバイス ・その他	<p>ここまで学んだ、疾病治療論（精神）、精神看護学概論、精神看護学方法論Ⅰの内容を元に、事例を中心に考え、討議して深める科目である。復習の上、積極的に参加し考えを述べる事が求められる。学ぶ内容は実習で実際に体験する内容になる。</p>

3.専門分野－3) 教授内容

(9) 看護の統合と実践

看護の統合と実践 構築の考え方

わが国の看護をめぐる環境は、急速な少子高齢化の進展、医療技術の進化、地域医療推進に即したシステムづくりなど、大きく変化してきている。そうした中で、看護師にはより患者の視点に立った、質の高い看護の提供が求められている。一方で看護業務の複雑・多様化、医療安全に関する意識の向上等の中で、患者の安全が重視され、看護学生は看護技術の経験の機会が限定されてきている。また、看護現場では複数患者を同時に受け持ち、複数の作業を同時進行でおこなわなければならない状況にある。こうした中では、看護基礎教育においても、多重課題に向き合い、優先度を考慮し、時間を管理しながら、他者と協働して問題を解決していく看護実践能力が求められている。

それらの現状を踏まえ、「看護の統合と実践」ではチーム医療における多職種との協働の中で看護の役割を理解し、マネジメントできる基礎的能力を身に付けること、医療安全の基礎的知識を修得すること、国際社会において広い視野に基づき、看護師として諸外国との協力を考えることができること、災害支援や救急現場における看護の基礎的知識について理解することなどの内容を含むものとした。また、エビデンスを重視した看護実践を行うために、看護研究の知識と研究を実践する能力、既習の学習知識を、臨床実践に即した形で統合し看護提供できるようになるための学内演習の充実を図った。

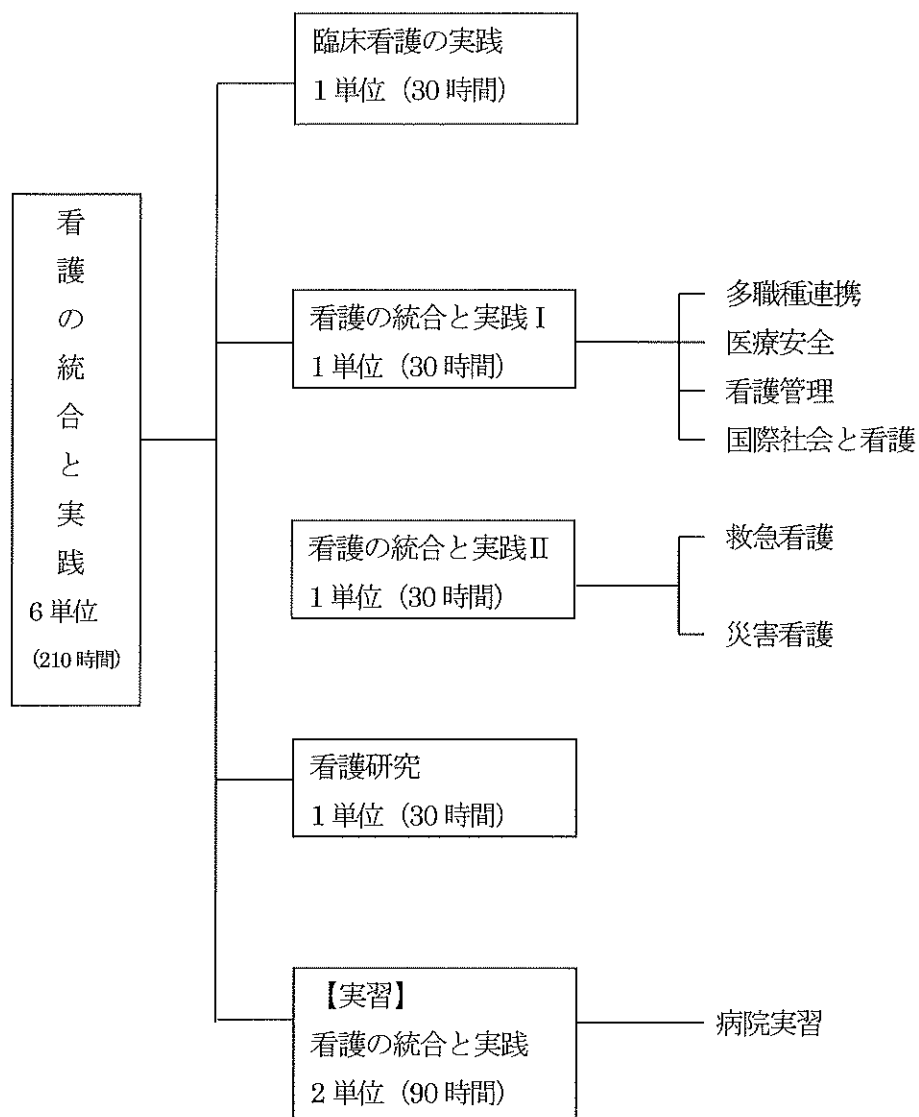
看護の統合と実践の目的

看護の提供は、看護師と患者という1対1の関係性だけではない。あらゆる看護活動の場で、患者を核としてその家族・多職種が取り巻くように存在している。そうした構造を理解し、患者の視点に立った安全で質の高い看護を提供するために必要な看護の基礎的知識を理解する。その上で、看護師あるいは看護を「病院」や「地域」、「国際」という大きな枠組みでとらえ、チーム医療における多職種との協働の中での看護師の役割・責務を理解する。さらに、看護の実践においては、臨床実践に近い形で提供するという視点に立ち、これまでの様々な既習の学習知識を駆使して統合する力を養う。

看護の統合と実践の目標

1. 医療安全についての知識を深め、「安全」の取り組みが理解できる
2. 多職種が連携し、医療・看護を提供するシステムを理解し、その中で看護師が果たす役割と必要な能力が理解できる
3. 看護組織の中では、業務管理・物品管理・情報管理・人材育成があることを理解し、看護管理について考えることができる。
4. 国際看護について考えることができる
5. 看護研究の必要性和プロセスが理解できる
6. 救急看護・災害看護の場面での看護の役割と基礎的知識が理解できる
7. 実践に即した看護提供場面を想定し、既習の学習知識・技術を患者の置かれている状況に合わせて考えたうえで、行うべき看護を決定するプロセスで、「統合する力」を養う。

看護の統合と実践の構成図と科目のねらい



授業科目	臨床看護の実践	講師名	神山奈津江	単位 1 単位 時間 30 時間	時期 2 年次通年
実務経験のある 講師による授業科目	○	実務経験	看護師		
科目目標 1. 患者の置かれている状況をふまえ、必要な情報を収集し、患者の状態やニーズを正確に理解できる 2. 病状（根拠）を踏まえて、適切な看護援助方法を判断できる 3. 安全・安楽な「質の保障」がされた看護援助技術を実施できる 4. 多重課題時の看護の優先度・タイムマネジメントの視点をもつことができる。 5. 多職種の援助・役割を理解して多様な視点を獲得し、連携の必要性を理解する。					

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担 当
1	事例の理解 1) 科目全体の説明 2) 事例の概要説明 各期の病状・事例理解・治療理解（クリティカルパス） 3) 他の職種者の立場、アプローチの視点も考えてみる 理学療法士・薬剤師・地域連携 MSW やケアマネージャー	講義	神山
2	1) 事例の担当グループを決定する 2) 個人でビジョンとゴールを検討する 3) グループで最終的なビジョンとゴールを決定する	グループワーク	神山
3	場面に応じた適切な看護技術の決定	グループワーク	神山
4	【グループワーク】		
5	（各個人単位でポートフォリオを作成する）		※
6	1) 事例の真のニーズ、置かれた状況をふまえた、適切な看護援助方法は何か検討していく	1 コマは宇都宮短期大学の学生とのグループワーク	宇都宮短期大学の先生
7			
8	2) 正しい看護技術が提供できるよう練習を重ねる。提供技術は本当に適しているか、視点を変えて繰り返し練習していくことで、統合技術を修得していく。		
9			
10			
11	※9 コマ中の 1 コマ、看護以外の職種の学生と共同学習 テーマ「事例の退院に向けて必要な支援」 ①多様な視点から援助を考える。 ②退院を見すえ、現在の時期に必要な支援が出てきた場合には、ロールプレイ内容を修正していく ③職種が違う人々と共通の目的（対象者の問題解決）をもち、問題解決を図ることの体験をする。		1 コマ
12	統合技術検討会（ロールプレイでの発表）	発表	神山
13	発表後全体討議し、最適な看護援助であるかを検討する。	・全体討議	
14	終了後は各個人で事例に必要な看護援助を最終決定し、試験当日にポートフォリオを持参する。		
15	試験		

テキスト・評価方法・留意点等

<p>テキスト等</p>	<p>テキスト： 1. 本庄恵子他：写真でわかる臨床看護技術②，インターメディカ，2021. 2. 吉岡充弘他：任和子他：系統看護学講座，専門分野Ⅰ，基礎看護技術Ⅰ，基礎看護学〔2〕，医学書院. 3. 吉岡充弘他：任和子他：系統看護学講座，専門分野Ⅰ，基礎看護技術Ⅱ，基礎看護学〔3〕，医学書院. 4. その他、グループ学習時には根拠を明確にするために必要な教材・テキストを参考にする</p>
<p>評価の方法</p>	<p>ループリック評価とポートフォリオ：60点 筆記試験の総合評価：40点</p>
<p>アドバイス ・その他</p>	<p>これまで学習してきた科目の知識をつかって、今まさに目の前にいるPさん（事例の患者）に、どのような援助をすることが最善と考えるのか、深く探求していきましょう。基礎看護学で学んだ看護技術を基本ベースに、各領域で学んだ方法論の知識等を取りいれて考えていくこととなります。さらに、PさんにはPさんの病態や状況や思いがあり、それらに対して、どのような根拠を基になにを変更するのか、あるいは、突然に生じた状況により、どのように判断したので援助を変更する、といったことを探求していきましょう。</p> <p>そして統合技術検討会では、自分が担当した事例以外に、他のグループの発表をみて技術検討していくことで、たくさんの視点に気づき、判断の仕方や援助方法を学ぶことでしょう。</p> <p>こうしてこの学習が終えた時には、自分が「より看護師に近づいている」という実感がもてることでしょう。</p>

授業科目	看護の統合と実践Ⅰ	講師名	神山奈津江	単位	1単位	時期	3年次前期
				時間	30時間		
実務経験のある講師による授業科目		○	実務経験	看護師			
科目目標 1. 2年次「臨床看護実践」で「他の職種者」との連携について事例を通して学習した経験をもとに、病院全体あるいは地域全体での多職種連携に広げて考え、その意義を理解できる。 2. 病院全体における看護部組織、その1単位である病棟、そしてチーム・1個人としての看護師、という構成が理解できる。 3. 看護チームにおける必要な能力が理解できる 4. 看護における「管理」(マネジメント)について理解できる 5. 国際社会の観点から保健・医療を考えるとともに、多様な文化に対する看護を考えることができる							

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担 当
1	I. 多職種連携 1. チーム医療とは 2. 多職種連携 (多職種のチームワーク) のあり方	講義	神山
2 3	II. 看護師のチームワーク 1. 病院全体の中での看護部組織 2. 看護部の特徴 3. 看護チームについて (看護提供体制) 4. リーダーシップとメンバーシップ 5. 情報伝達・共有	講義	
4	7. 業務遂行のためのマネジメント 1) 1日の業務の組み立て 2) 多重課題への対処	講義	
5 6 7 8	III. 医療安全 1. 医療安全の基本的考え方 2. 組織としての医療安全対策 4. 医療事故の種類と安全対策 5. インシデント・アクシデント 6. リスクマネジメント (要因分析と再発防止)	講義	
9 10 11 12	IV. 看護管理 1. 看護管理とはなにか 2. 管理業務 (人事管理・業務管理・人材育成) 3. 看護管理者が行っている組織経営の任務 ※ベッドコントロール・平均在院日数 etc. 4. スタッフナースに求められる管理的役割	講義	
	5. 看護チームと勤務の実際 (終了後レポート)	グループワーク	

13	V. 国際看護	講義	
14	1. 国家・地域間の健康格差の現状 2. 問題解決：国際協力と SDGs（持続可能な開発目標） 3. 多様な文化と看護		
15	筆記試験		

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	<p>テキスト：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小澤かおり編：新体系看護学全書, 看護の統合と実践 1, 看護実践マネジメント/医療安全, メヂカルフレンド社, 2020. 2. 矢野正子編：新体系看護学全書<別巻>, 看護管理, 看護研究, 看護制度, メヂカルフレンド社, 2021. <p>【国際看護の授業時】</p> <ol style="list-style-type: none"> 3. 矢野正子編：系統看護学講座, 統合分野, 災害看護学・国際看護学, 看護の統合と実践③, 医学書院, 2021. 4. 厚生労働統計協会：国民衛生の動向, 厚生指標増刊, 200/221.
評価の方法	<p>筆記試験 90 点 グループワーク後のレポート 10 点</p>
アドバイス ・その他	

授業科目	看護の統合と実践 Ⅱ	講師名	石塚 雅子		単位	1 単位	時期
			印波 小夜子		時間	30 時間	
実務経験のある 講師による授業科目	○	実務経験	看護師				
科目目標 1. 救急患者とその家族への精神的援助が理解できる 2. 救急看護体制とアセスメントが理解できる。 3. 救急時の看護技術を習得できる 4. 災害看護の特徴と災害時の看護活動について理解できる 5. 地方自治体の防災体制を知り、災害時の自己の行動について考えることができる							

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担 当
1	1. 救急看護とは	講義	石塚
2	2. 救急看護の対象理解 (患者と家族の特徴)		
3	3. 救急看護体制と看護の展開		
4	4. 救急患者の観察とアセスメント		
5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報収集・観察とアセスメント ・ チームメンバーの応援要請 ・ 重症度の判断と治療の優先順位 (トリアージ) ・ 緊急時の検査 		
6	3. 主要病態に対する救急処置と看護	演習	
7	<ul style="list-style-type: none"> ・ 心肺蘇生法<BLS と ALS> ・ 小児の心肺蘇生 ・ 主要病態への対応 (意識障害・呼吸障害・ショック・外傷等) ・ 救急時に使用する主な医薬品 		
8	4. 救急時の看護技術	講義	印波
9	①気道確保②人工呼吸③心臓マッサージ④AED⑤止血法		
10	1. 災害看護の歩み		
11	2. 災害医療の基礎知識		
12	災害医療の特徴 ・災害と情報・災害対応・災害に関する法律		
13	3. 災害看護の基礎知識		
14	災害看護の役割・対象・看護活動・		
15	4. 災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護		
	急性期・亜急性期/慢性期・復興期/静穏期		
	5. 被災者特性に応じた災害看護の展開		
	子ども/妊産婦/高齢者/障害者/精神障害者		
	/慢性疾患患者/原子力災害被災者/在留外国人		
	6. 災害とこころのケア		
	7. 災害看護の展開		
15	筆記試験		

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	<p>テキスト：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 救急看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 山勢博彰他：系統看護学講座 別巻, 救急看護学, 医学書院, 2021. 2) 松月みどり監修：写真で分かる急変時の看護, インターメディカ, 2019. 2. 災害看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 竹下喜久子編：系統看護学講座, 統合分野, 災害看護学・国際看護学, 看護の統合と実践③, 医学書院, 2021.
評価の方法	<p>筆記試験 100%</p> <p>1. 救急看護：50% (45分) 2. 災害看護：50% (45分)</p>
アドバイス ・その他	

授業科目	看護研究	講師名	境 敏一 全教員	単位 1 単位	時期 3 年次前期
				時間 30 時間	
実務経験のある 講師による授業科目		○	実務経験	看護師	
科目目標 1. 看護研究の意義、必要性が理解できる 2. 看護研究のプロセスが理解できる 3. 文献の活用方法が理解できる。 4. 研究プロセスに沿って受け持ち患者のケーススタディ実践ができる。					

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担当
1 2	1. 看護における研究の意味 2. 看護実践から得る研究の手がかり 3. 研究の進め方 4. 研究デザインの種類とプロセス 1) 研究の種類	講義	境
3 4	2) 研究過程の概観 3) 論文の種類と構成 【演習：研究のテーマの検討】	講義 演習：臨地実習での 経験からケーススタ ディのテーマを考え る	
5 6	5. 文献検索の方法と入手方法 1) 文献の意義、検索法 【演習：文献検索と入手方法（医中誌・Google）】 2) 文献の読み方・整理の仕方	講義 演習：インターネッ トを活用した文献検 索と、文献のまとめ 方	
7	6. 臨床研究に関する倫理指針 7. 研究計画書・論文作成時の留意点 8. ケーススタディ作成要項	講義	
8 9 10 11 12 13 14 15	9. ケーススタディの実際 ※指定日にケーススタディ計画書を提出する。 ※指定日にケーススタディを提出する。 ※教員による指導過程および上記提出で 100 点評価	担当教員の指導を受 け、ケーススタディ 計画書、ケーススタ ディを作成する。	全教 員

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	テキスト： 1. 矢野正子編集：新体系 看護学全書<別巻> 看護管理 看護研究 看護 制度，メジカルフレンド社，2019.
-------	---

評価の方法	論文作成過程をルーブリック評価表で評価
アドバイス ・その他	3年時前期に臨地実習と並行した科目であるため、課題達成へ向け指導教員との連絡を密にとり、主体的・計画的に行動してください。